

[成果情報名]パン用小麦品種「せときらら」の奨励品種採用

[要約]小麦品種「せときらら」は、「農林 61 号」と比較して出穂期、成熟期ともに 4 日早く、稈長はやや短く、倒伏耐性は強い。収量は「農林 61 号」と同等で「ニシノカオリ」よりも多収であることから、京都府の奨励品種に採用し、普及を図る。

[キーワード]小麦、せときらら、奨励品種、実肥施用

[担当]作物部

[代表連絡先]電話 0771-22-5010

[研究所名]京都府農林水産技術センター農林センター

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

京都府では、これまで日本麺用に「農林 61 号」が多く作付けされているが、現在、学校給食用パンの供給を目的に、実需者からは製パン性に優れる品種が求められている。パン用小麦としてはこれまで「ニシノカオリ」を奨励品種に採用し、一部で作付けされているが、収量の低さが課題となっている。そこで製パン性と収量性に優れる「せときらら」について従来品種と比較した結果、耐倒伏性が強く多収であることから奨励品種に採用し普及・定着を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「せときらら」は「農林 61 号」（標肥）「ニシノカオリ」（標肥）と比較して、以下の特徴がある（表 1）。
 - (1) 出穂期、成熟期は「ニシノカオリ」と同等で「農林 61 号」より 4 日早い。
 - (2) 稈長は「農林 61 号」よりやや短く「ニシノカオリ」と同等で耐倒伏性は強い。
 - (3) 穂数は「農林 61 号」より少なく「ニシノカオリ」と同等である。
 - (4) 収量は「農林 61 号」と同等で「ニシノカオリ」より多い。
 - (5) 千粒重は約 40g と「ニシノカオリ」と同等で「農林 61 号」よりやや小さい。
 - (6) タンパク質含有率は「農林 61 号」とほぼ同等で「ニシノカオリ」より低い。
なお、多肥条件でも生育特性は標肥条件と同様で、タンパク質含有率は高くなる。
2. 出穂期 10 日後に N6kg/10a の実肥（硫安）を施用すると、パン用小麦として目標とする 12%のタンパク質含有率を確保できる（表 2）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：小麦生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積：京都府全域・「農林 61 号」119ha、「ニシノカオリ」23ha の合計 142ha を「せときらら」に全面切り替え。
3. その他：適正なタンパク質含有率確保のため実肥の施用（N6kg/10a 程度）が必須である。その上で、実需者と製パン性等を確認しながら実肥の効果を検証していく必要がある。

[具体的データ]

表1 小麦奨励品種決定調査の概要

施肥条件	品種系統名	供試年数	播種期(月.日)	出穂期(月.日)	成熟期(月.日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	倒伏程度(0-5)	収量(kg/a)	同左対標準比率(%)	千粒重(g)	タンパク質含有率(%)
標肥 対照 対照	せときらら	3	11.12	4.15	6.04	88	7.9	449	0	43.4	103	40.2	8.9
	ニシノカオリ	3	11.12	4.15	6.03	87	6.9	444	0	30.4	73	40.0	11.4
	農林61号	3	11.12	4.19	6.08	97	7.9	490	1.6	42.0	100	42.6	9.3
多肥 対照 対照	せときらら	2	11.12	4.14	6.05	88	8.4	444	0	50.4	96	40.0	9.5
	ニシノカオリ	2	11.12	4.14	6.05	91	6.9	557	0	39.2	75	41.0	12.3
	農林61号	2	11.12	4.19	6.08	100	8.0	562	1.8	52.4	100	42.5	9.7

試験年次はH26-28年(2014-2016)。播種量は3年とも7kg/10a。施肥はN成分量で26年播が基肥6kg/10a、穂肥はN2.5kg/10aを1月と2月に1回ずつ施用し、計11kg/10a施用した。27年播は基肥に被覆尿素肥料を含む全量基肥施用で標肥が11kg/10a、多肥が16.5kg/10a施用。28年播は基肥に被覆尿素肥料を含む全量基肥施用で標肥が11kg/10a、多肥が16kg/10a施用。倒伏程度：無(0)～甚(5)

表2 所内および現地ほ場における「せときらら」実肥施用によるタンパク質含有率向上(2016)

地域	品種名	試験区名(実肥量kg/10a)	播種期(月.日)	出穂期(月.日)	成熟期(月.日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	倒伏程度(0-5)	収量(kg/a)	同左対標準比率(%)	千粒重(g)	タンパク質含有率(%)
所内試験	せときらら	0				83	8.3	480	0	43.7	98	39.7	9.3
		6	11.10	4.17	6.07	85	8.2	476	0	44.3	100	42.2	12.5
		9				82	8.1	442	0	43.4	98	42.2	12.3
	ニシノカオリ	0	11.10	4.17	6.07	80	6.6	433	0	35.3	79	43.1	8.6
		6	11.10	4.24	6.07	96	8.1	513	1.7	44.5	100	43.1	8.6
		9											
亀岡市 河原林町	せときらら	0				79	6.9	457	0	31.2	123	39.5	8.8
		3	11.17	4.20	6.06	-	-	-	0	33.8	133	42.3	10.9
		6				-	-	-	0	35.5	140	41.2	12.0
	ニシノカオリ	0	11.18	4.20	6.06	79	5.7	397	0	25.4	100	39.7	11.2
		3				70	7.3	292	0	16.1	84	36.9	9.3
		6	11.12	4.24	6.09	67	7.1	242	0	17.1	90	37.5	10.3
福知山市 印内	せときらら	0				73	7.8	337	0	21.6	113	38.4	12.3
		3				71	7.2	265	0	19.1	100	39.4	13.5
		6											
	農林61号	0	11.12	4.24	6.09	70	7.4	235	0	19.1	100	37.8	8.0

注1) 播種量は所内試験および福知山市印内で7kg/10a、亀岡市河原林町で8kg/10a。

注2) 所内・亀岡は基肥に被覆尿素肥料を含む全量基肥施用。施用N成分(kg/10a)は所内11kg、亀岡12kg。福知山は基肥と穂肥(2月上旬施用)を分施。N量は計8.7kg。

注3) 実肥は出穂10日後に硫酸で施用。注4) データなし:-

(林健、大橋善之)

[その他]

研究課題名：麦類奨励品種決定調査

予算区分：府単

研究期間：：2014～2016年度

研究担当者：林健、大橋善之